

『第5回学生が選ぶインターンシップアワード』学校応募データ

学校情報			
		学校区分	国立
		管理ID	200049

ISタイトル

ローカル・イノベーター養成コース 課題解決インターンシップ・ゼミ

オリエンテーション 事前学習（実施項目）

インターンシップ参加目的の明確化 インターンシップの内容説明 職業適性・自己理解などを深めるワーク 業界・企業・仕事内容の説明 学生1人ひとりに対する目標設定 人事や社員による講義・レクチャー 社員との交流・座談会

オリエンテーション 事前学習 内容詳細（自由記述）

本インターンシップでは課題解決型で実践まで行うため、自身の目標設定から、受入れ先とのプログラム内容の調整、解決すべき課題の設定が重要となる。そのため、事前に企業を知ることはもちろん、どんな課題に取り組むか（課題設定）、何が課題なのか（要因分析）を考える視点やスキルを事前学習でインプットし、プログラムの企画書まで作成することをオリエンテーションとしている。

インターンシップ 実施項目

【実務体験】実際の業務を一部実施 【実務体験】実際の業務を全て実施 【疑似体験】ロールプレイングやシミュレーション形式の仕事体験 【疑似体験】課題に対するグループワーク（企画立案、課題解決、プレゼンなど） 【疑似体験】課題に対する個人ワーク 【交流】社員の同行等による仕事見学オフィス・工場・研究所などの職場見学 【交流】社員との座談会 【交流】参加学生との座談会 【その他】職業適性・自己理解などを深めるワーク 【その他】人事や社員による講義・レクチャー 【その他】就職活動に対するアドバイス・レクチャー

インターンシップ 内容詳細（自由記述）

本プログラムは、信州大学「全学横断特別教育プログラムの1つ「ローカル・イノベーター養成コース」の専用科目として開講している。本コースに所属する主に3年次生を対象として、地域社会にイノベーション（革新/創新）を起こすための人材として、実践的な課題に取り組 み、自らが解決策を提案する。提案の留まらず、実際にアクションを してみて、改善点や発展のポイントを分析することで、分析力や課題設定力の深化を図る。

【授業の概要】

本授業では、①自分で実際の地域フィールドを選び、地域課題を設 定してその解決に欠かせない②具体的な受入先（企業・自治体・団体・地域）を定め一定期取り組む（インターンシップ）。③これまで得 た知識や経験からアクションプラン（計画書）を作成し実行。④分析・報告、改善点の提案のPDCAを実践する。

参加後は、キャリアシートという自身の取り組みをまとめたポートフォリオを作成し、振り返りをするとともに、自分の活動（キャリア）を伝えるプレゼンツールとして活用できるようにしている。

協力社員の属性	
社長 役員 部長 課長（マネージャー） 主任（チームリーダー） 若手社員 社外の人（お客様、取引先など） その他	
具体的社員交流	
<div>企業の受入れ先には、人事に関わらず「課題」を提示いただける方に対応を依頼した。企業側には、作業上の課題ではなく、企業が抱える、あるいは取り組みたい企業課題や地域・社会課題を出してもらう事を依頼しの、解決のためにアクションを通じて、学生・企業が一緒になって取り組む機会を創出している。</div>	

NO.200049

インターンシップ情報										
開催月	2021年4月	2021年5月	2021年6月	2021年7月	2021年8月	2021年9月	2021年10月	2021年11月	2021年12月	2022年1月 2022年2月
対象属性（文理）	特に対象は決めていないまたは受け入れ先によって異なる							総受入人数	20	
低学年参加	大学低学年には訴求をしなかった							単位認定	はい	
他学校などとの連携か？	いいえ		報酬・支給		報酬・支給等はなし					
実施形式	一部オンラインで実施									

フィードバック手法

グループに対する書面（評価シートなど）でのフィードバック グループに対する口頭と書面の両方 個人に対する口頭でのフィードバック 個人に対する書面（評価シート等）でのフィードバック 個人に対する口頭と書面の両方

フィードバック時間

1時間以上

フィードバック頻度

プログラム期間中複数回実施した

FB内容詳細（自由記述）

実施にあたり、学生は企業と打ち合わせをして実践する課題プログラムを設定し、企画書をつくる。それに基づいてインターンシップを実施し、実施後は課題解決提案をまとめた、イノベーション提案プレゼン（バワーポイント10枚程度）を作成して実施報告をする。そのプレゼンに対しても企業や担当教員からフィードバックコメントを行う。また、キャリアシート（A3両面）を作成し、そこに企業からのコメントを掲載するようにフォーマットを設定している。

フォローアップ 事後学習（実施項目）

学生自身によるインターンシップ経験の振り返り・学びの言語化 個人面談 講義・レクチャー 発表会・報告会

フォローアップ 事後学習（自由記述）

本プログラムは、ローカルイノベーター養成コースの3年生を対象としているが、3月に特に成果発表の機会として、プレゼンイベントFLIP（フューチャー・ローカル・イノベータープレゼンテーション）を開催し、主体的で影響力のある取り組みをした学生に、企業や後輩学生に向けてプレゼンを行う機会を実施し、活動を報告する場を設けるとともに、広く知ってもらうようにしている。

コース学生は先輩の活動を参考に触発され、後輩学生へはコースの受講を促す機会としている。企業にも成果を報告するとともに、活動を知ってもらい、次年度の受け入れ先として協力を仰ぐ機会としている。

工夫ポイント（自由記述）

本プログラムでは、企業や自治体の課題をテーマとして、それを実践的に取り組むインターンシップとしている。そのため、受入れ先の企業の課題が、毎年継続的に取り組めるものもあれば、変化や発展によって新規の課題としても設定できる。また、大学側で企業や課題を学生へ提示する場合もあれば、学生自身が自分で取り組みたい課題を設定することも可能としており、学生の活動を通じて地域や企業との新たな連繋を生み出すことにもつながっている。

さらに、キャリア関係の他の講義にもリンク、インターンシップへの参加を促すために、業界研究や実社会の最新の動向などを講義で扱うことになっている。

教育的効果（自由記述）

本プログラムが本格スタートし始めて2年目となるが、インターンシップで学んだ学生が、地域定着に繋がった例がでてきた。建築を学ぶ学生が、地域の森林問題に着目し、長野県は森林がたくさんあるのになぜ県産材が使われずウッドショックのような問題が起きるのかを、林業事業者もとへ通い作業体験をしながら学んだ。実際に間伐や搬出作業をインターンシップとして体験し、木材の流通の実態を自身の目で見て、その大変さや林業における課題を実感した。その後、ならば建築設計の消費者側として積極的に県産材を使う会社に就職したいと、県内の建設会社を選択した。作業体験が課題を知るきっかけとなり、地域で活躍する人材の育成につながることが実感できる事例となった。

改善活動（自由記述）

本プログラムでは、一人で取り組む場合もあれば、グループで一つの企業に行き、複数の課題設定し協力して取組むことも可能となっている。信州大学は、4つのキャンパスに分かれていて分散キャンパスとなっている。今までは学部横断で取り組むような授業がなかなかない中で、今回知識や専門も多様な学部が、協力して課題解決型のインターンに取り組むプログラムができ、交わるからこそ各学生の関心や個性が活かされた活動が生まれている。また、各地キャンパスの繋がりも行かされるため、各地域で活動が生じ、それが発表の機会などで繋がるようになってきた。こういった多様な交流のメリットを、益々活かしていきたい。